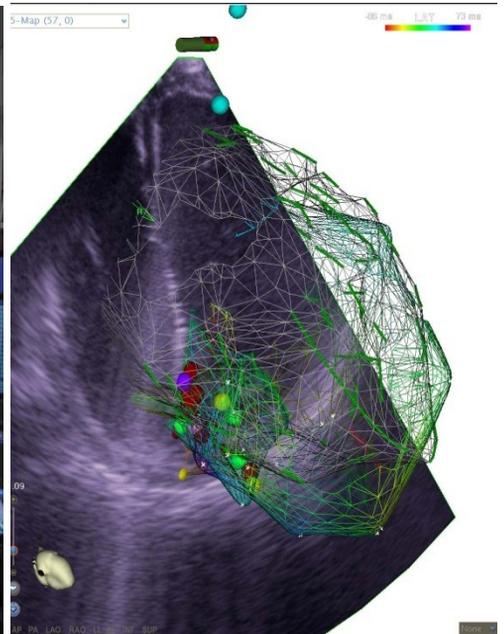




カテーテルアブレーション用に設計・新設された心臓カテーテル検査室



カテーテルアブレーションの精度を高めるための3次元マッピングシステム

ハートニュース vol. 2 巻頭言

新年度がスタートして3ヶ月経ちますが、循環器センターにも変化があります。

心臓血管外科副部長として5年間活躍してくれました服部浩治先生(H2年卒)が、6月より藤田保健衛生大学心臓血管外科へ栄転異動となりました。服部先生は様々なチャレンジを行い、当院での先進的手術の原動力でした。通常の大動脈弁置換ができないような手術困難症例に対するapico-aortic bypass手術を行ってくれました。その技術・成績は高く評価され、東京や名古屋、鹿児島などの大学病院等からの手術依頼があり、5年間で12例の手術を行いました。とくにapico-biaxillary bypass手術は世界2例目の手術報告としてCirculation誌に掲載されました。また、小切開手術の導入にも貢献してくれました。

さて、榊原記念病院(東京:府中市)に1年間出張研修していた加藤泰之先生が4月から復職し、副部長となりました。多くの経験を積み、圧倒的なスピードと高い技術を身につけて帰ってきました。また、7月よりシニアレジデントの高橋洋介先生がスタッフとなります。

新体制が整いましたので、皆様のご要望に迅速・確実に応えられるよう一丸となって取り組んでまいります。

大阪市立総合医療センター 副院長・循環器センター長
心臓血管外科部長 柴田利彦

循環器内科には、7月から新たにスタッフとして占野先生がベルランド総合病院循環器内科から赴任され、主に不整脈治療を中心に担当します。占野先生は、ベルランド総合病院循環器内科の不整脈部門の立ち上げの中心となって活躍してきました。その実績を当院でも十二分に発揮されることが期待されます。

近年の不整脈治療の進歩は目覚ましく、従来のペースメーカや除細動器の植え込み術のみならず、心室再同期療法や頻脈性不整脈のカテーテルアブレーションなど様々な治療が行われています。特に心房細動に対するカテーテルアブレーションは俄かに注目されています。当院でも昨年、不整脈専用の心臓カテーテル室を新設し、これまで以上に不整脈診療の充実をはかっていきたいと考えているところです。

7月から地域医療機関からのご紹介に迅速に対応するために、新たに**金曜日に地域初診外来(阿部担当)**を、**水曜日午後に不整脈専門の地域初診外来(占野担当)**を増設しました。地域の先生方のご利用をお待ちしています。

循環器内科部長 成子隆彦

今号の循環器内科

当院におけるカテーテルアブレーション治療のご紹介 循環器内科 副部長 中川英一郎

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療は、近年目覚ましい発展を遂げています。発作性上室性頻拍症、心房粗動に対しては95%以上の根治率を期待できるようになりました。最近では心房細動、心室頻拍などに対してもアブレーションが積極的に行われるようになりました。一昔前までは、心房細動に対する根治は難しいと考えられていました。しかし、発作性心房細動であれば、複数回のアブレーションを行えば80%以上の根治率が期待できるようになってきました。また持続性心房細動であっても、アブレーションにより、薬物治療なしで40-50%の根治が期待できる時代となっています。

当院では昨年よりカテーテルアブレーションを効率的に行えるように設計された心臓カテーテル検査室の稼働を開始しています(巻頭頁写真左)。また心腔内エコー、心臓CTと3次元マッピングを組み合わせることが可能となるCARTO3という最新鋭のシステムを導入することにより、手技の成功率と安全性を高めています(同右)。またハード面を整備するだけでなく、小児不整脈科の医師とも連携し、臨床検査技師、看護師とチームを組んで治療を行い、患者さんにとってもっとも良い不整脈医療を提供できるように考え、日常診療を行っています。そういった取り組みによって、治療成績の向上合併症の減少、手技時間の短縮などが得られています。カテーテルアブレーションは根治を目指す治療法として、これからもますます進歩をとげていく治療です。頻脈性不整脈で困った際には、カテーテルアブレーションを治療の選択肢として念頭に置くことが大切なことだと思います。



新任のご挨拶 循環器内科 医長 占野賢司

7月より大阪市立総合医療センター循環器内科に勤務することになりました占野賢司(しめのけんじ)です。ベルランド総合病院にて約4年間、虚血性心疾患に対するインターベンション、不整脈疾患に対するカテーテルアブレーションやデバイス治療などを行い、とりわけ、不整脈疾患においては中心的役割を任されておりました。

不整脈治療の分野は近年発展が目覚ましく、治療が難しいとされてきた多くの不整脈を、根治できるようになってきております。なかでも心房細動の根治は従来困難とされてきましたが、最近ではカテーテルアブレーションにより、かなり多くの患者様において根治が可能になっています。しかし、侵襲的治療には限界や合併症が存在するものまた事実です。

患者様に十分な説明をさせていただき、症状やご意見を十分に尊重した上で、患者さんを少しでも癒すお手伝いができればと考えています。病気を診る、のではなく、人を診る、を常に心がけて診療に携わることを心掛けています。

当院では中川医師とともに不整脈疾患を中心に診療することになるとは思いますが、地域の方々や御開業の先生方からの信頼を今まで以上に得られるように努力していきたいと思っております。不整脈で困られている患者様がおられましたら、ご説明だけでもさせていただきますのでお気軽にご相談ください。



外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	小松	交代制	柚木	成子
午後	阿部	小松	中川	柚木	成子
	中川 (ペースメーカー)		田中		

地域初診外来(水曜日午後と金曜日午前に新設しました)

	月	火	水	木	金
午前	成子			成子	阿部
午後			占野 (不整脈)		

今号の心臓血管外科

出張のご報告および帰阪のご挨拶 心臓血管外科 副部長 加藤泰之

2012年4月より1年間、長期出張制度を利用し、東京府中市にある循環器専門病院の榊原記念病院で外科スタッフとして働く機会を得ました。ご存知のとおり榊原記念病院は320床の小さな病院ですが、年間成人心臓血管外科手術数は約1,000件(開心術約800件)行われ、成人心臓血管外科手術症例数日本一を誇る病院です。成人外科部門トップの高梨秀一郎先生は冠動脈外科における第1人者の1人で、以前大阪市立総合医療センターに勤務されておられました。現在も左冠動脈前行枝(LAD)のびまん性病変に対しoff-pump下に左内胸動脈を用いた広範囲血行再建を積極的に施行されています。それ以外にも両側内胸動脈を用いたOPCAB、虚血性僧帽弁閉鎖不全症や心筋症に対する手術など数多くの虚血性心疾患手術が行われ、その手技について学ぶことができました。もちろん虚血性以外の弁膜症や大血管の手術も多く、特に自己弁温存大動脈基部置換術(David、Yacoub手術)や低侵襲下心臓手術(MICS)は非常に参考になりました。また緊急症例は断らないという病院の方針のため大動脈解離、大動脈瘤破裂が数多く搬送されてきました。私自身1年間で外科スタッフとして虚血性心疾患(特にOPCAB)、弁膜症、大血管手術など計154例執刀しましたが、そのうち約3分の1は緊急手術症例でした。当院は弁膜症(特に僧帽弁形成)ではすでに実績がありますが、今後は榊原記念病院で得た経験をもとに、OPCABやびまん性冠動脈病変に対する治療、大血管手術(自己弁温存大動脈基部再建術など)、MICSなどにも力を入れていきたいと考えています。また当院は総合病院で他科との競合もありますが、榊原記念病院のように断らない緊急体制を確立していければと考えています。



スタッフ就任のご挨拶 心臓血管外科 医長 高橋洋介

2001年、大阪市立大学を卒業し、同年に大阪市立大学第2外科に入局いたしました。2011年からは大阪市立総合医療センターで心臓血管外科シニアレジデントとして働かせていただいておりますが、この度、2013年7月から心臓血管外科のスタッフに就任することになりました。

今後、心臓外科領域では低侵襲の手術が求められることが多くなると考えられます。私は、総合医療センターで低侵襲下心臓手術(MICS: minimum invasive cardiothoracic surgery)や心不全外科治療(補助心臓等)の仕事がしたいと考えており、現在、これらの仕事について、部長の柴田先生にご指導いただいております。これらの仕事には、私の強みである忍耐力を活かすことができると考えております。また、これらの仕事を達成させるためには、循環器内科と心臓血管外科のより一層深い連携が必要です。私自身、至らない点が多いと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。



外来担当医のご案内

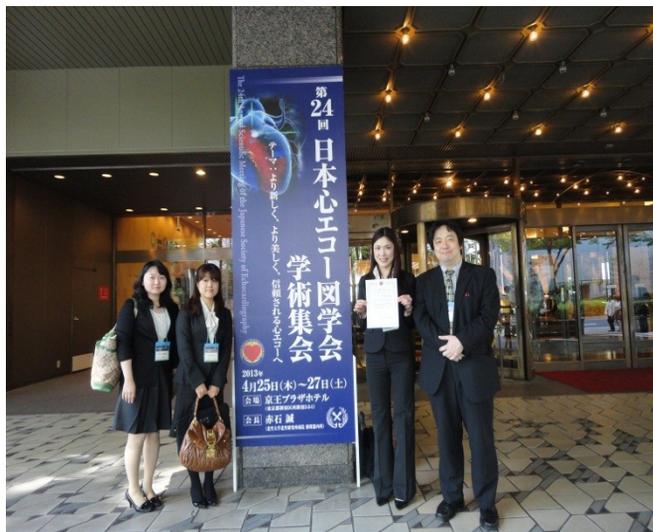
	月	火	水	木	金
午前	交代制	柴田	高橋	加藤	元木
午後	交代制	柴田	高橋(1・3週)	加藤	元木

今号の循環器センター日記

毎年4月から6月には、心エコー図検査に関する学会・研究会が多く開催されます。さて、我々も5月18日から19日に大阪国際会議場にて、The Echo Live 2013という会を運営いたしました(写真左)。The Echo Liveは、西宮渡辺心臓・血管センターの吉川純一先生、岡山大学の伊藤浩先生が代表世話人となり、私や桜橋渡辺病院の岩倉克臣先生、関西電力病院石井克尚先生等が中心となって企画運営を行っている心血管エコーの教育プログラムです。当院の柴田副院長も人気レギュラー講師陣の一人です。今年で第12回となりましたが、550人を超える医師・技師の方々にお集まりいただき、熱気あふれる実り多き会になりました。ご参加いただいた方々には心より御礼申し上げます。

また、4月に東京で開催された日本心エコー図学会学術集会では循環器内科レジデントの田中医師(写真右、左から2人目)が心不全の心エコー図指標に関する発表を行いました。ご存知の通り、心エコー図検査は心不全診療において絶大な威力を発揮します。左室駆出率の低下した慢性心不全患者において、心不全再入院の予測にどの指標が有用であるかという報告が数多くありますが、結果は必ずしも一致しておりません。そこで、当院で田中医師が再調査したところ、E/E' というDプラ指標が独立した心不全イベント予測因子であり、この結果を発表いたしました。リスク評価に非常に有用な指標だと思われます。増加する心不全患者に対して、当院でも今後十分な対策を講じていくつもりであります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

循環器内科 副部長 阿部幸雄



当院循環器内科は、近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられることができるようにするため、循環器内科直通電話(ハートライン)を設置しました。

ハートライン(循環器内科直通電話)
06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、
06-6929-1221(病院代表)から呼び出して下さい。